

4.3 今後の課題：

- ① 機械メーカーへの行政からの指導も必要ではないかと考える。
- ② 機械のリスクアセスメントは補助的なものになるよう、機械包括安全基準等の安全規格としてリスクを網羅し、正確かつ簡便に誰にでも実施出来る方法も模索して行きたい。
- ③ 投資計画は短納期を極力避け、リスクアセスメント期間を見込んだリードタイムをとるよう努めなければならない。

5 これまでに行った機械製造者へのフィードバックとその要求事項等

例示した加工品熱殺菌機においては、
リスクアセスメントの実施方法全般を共同作業で行い、今後の安全施策推進への取り組みと協力をお願いした。

6 リスクアセスメントへの取り組みによって得られた効果

6.1 有形効果：

- ① 見逃したであろうリスクを発掘し、低減できた。
- ② 制度導入後まだ1年程度であるので、本施策の実施効果の正確な判定は出来ないが、前年度新規導入及び改造後の機械が原因の災害が3件あったのに対し、制度導入後1年間で55台の機械が導入されたが、同種災害は0件となっている。

6.2 無形効果：

- ① 機械メーカー及び自社担当者の安全への関心と知識が深まった。
- ② リスク低減のための手法策定が効率化した。

6.3 投下費用

実際のコストアップとはなっていないがリスクアセスメント実施期間として1ヶ月程度を要する。

6.4 その他、問題点など

グループ内で実施したリスクアセスメント結果をデータベース化し、情報共有を図り、リスクアセスメントに関する時間の短縮と精度のある簡便化を志向していきたい。